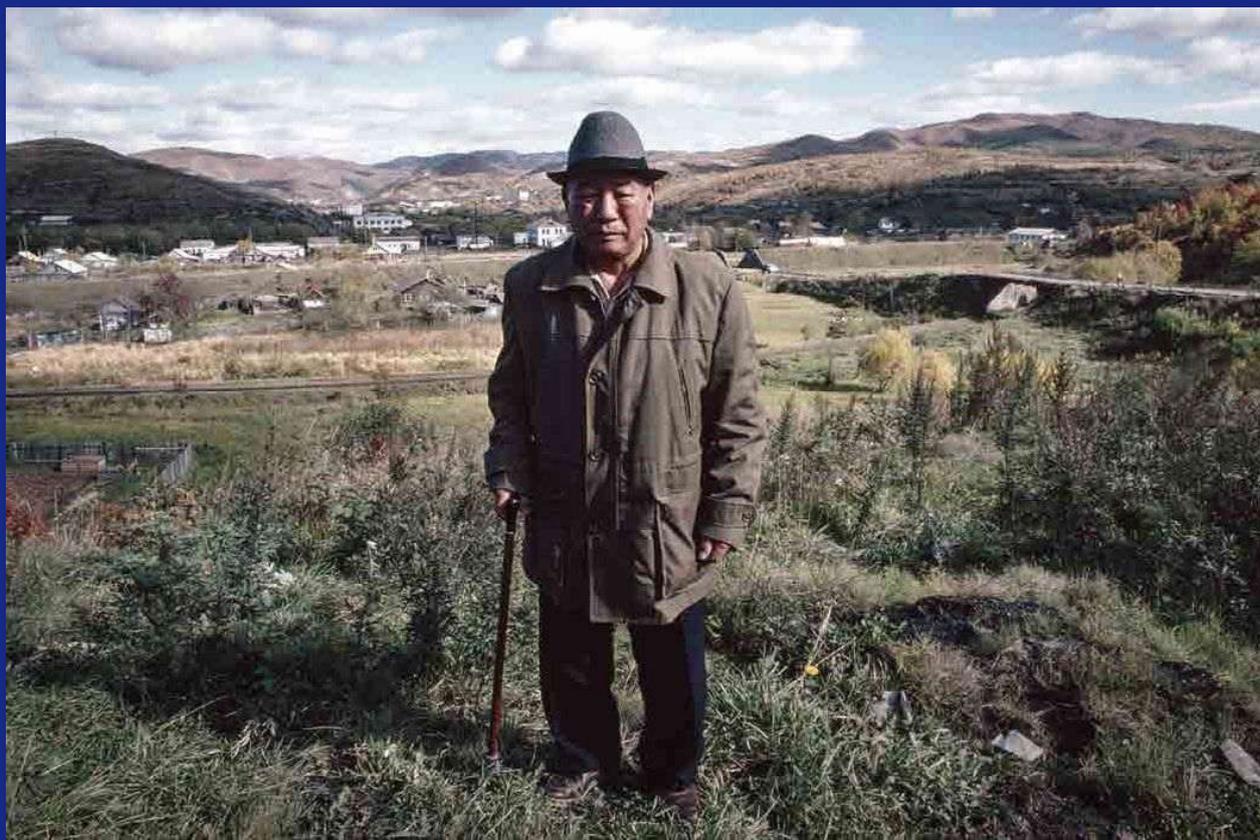


立命館大学国際平和ミュージアム ギャラリー企画展

樺太棄民

日本に翻弄された朝鮮人と先住民族



伊藤孝司 写真展

2026年 7月3日(金) - 8月1日(土)

9:30~16:30 (入館は16:00まで)

休館日 7月5日(日)・12日(日)・19日(日)・21日(火)・26日(日)

立命館大学国際平和ミュージアム1階 企画展示室

入館料：大人400円、中学生・高校生300円、小学生200円

障害者手帳・被爆者健康手帳・戦傷病者手帳をお持ちの方（付添いの方1名も）と、立命館で学ぶ人・働く人は無料
JAF 会員証提示で1枚で5名まで50円引き



立命館大学国際平和ミュージアム
Kyoto Museum for World Peace, Ritsumeikan University
〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1
TEL 075-465-8151

伊藤孝司ギャラリートーク

7月25日(土)・8月1日(土)、両日とも14時~

主催：伊藤孝司写真事務所 itoh-takashi@nifty.com 後援：立命館大学国際平和ミュージアム

樺太棄民 置き去りにされた朝鮮人と 戦争に駆り出された先住民族

朝鮮人



㊤連行された炭鉱で戦後も働いた ㊦サハリンの朝鮮人家族と韓国から訪問した親族 ㊧韓国の空港でのサハリンからの帰国者との再会

日本が統治していた樺太に暮らしていたのは、日本人だけではなく、炭鉱などへ強制連行されたり、日本による過酷な植民地支配によって生活できなくなり渡って来た朝鮮人もいた。そもそもここにはウイльтаやニブフなどの先住民族が暮らしていた。

しかしアジア太平洋戦争が始まると、先住民族は日本軍に召集されてソ連との国境警備をさせられる。日本敗戦になると、先住民族は「戦犯」としてシベリアで抑留。そして日本人37万人は引き揚げたが、4万3000人の朝鮮人は置き去りになった。



先住民族



㊨シベリア抑留の男性と夫を失った姉 ㊩偵察活動をしたソ連との国境に置かれていた標識



伊藤孝司写真展「原爆棄民 韓国・朝鮮人被爆者の証言」

ウトロ平和祈念館 / 4月24日(金)～8月31日(月) (休館日: 火・水・木、8月14日～16日)

平和のための京都の戦争展

7月25日(土)～8月1日(土) 26日は休館

立命館大学国際平和ミュージアム 中野記念ホール / セミナー室①②③ほか

関連事業

伊藤孝司プロフィール

フォトジャーナリスト。(社)日本写真家協会会員 / 日本ジャーナリスト会議会員。日本の過去と現在を、アジアの民衆の視点から捉えようとしてきた。アジア太平洋戦争で日本によって被害を受けたアジアの人びと、日本がかかわるアジアでの大規模な環境破壊取材し、雑誌・テレビ・インターネットなどで発表。近著は『樺太棄民 [増補改訂版] 日本に翻弄された朝鮮人と先住民族』(論創社・2026年7月刊行)『原爆棄民 [増補改訂版] 韓国・朝鮮人被爆者の証言』(論創社・2025年)『サラン 波乱の海を越えて 韓国・朝鮮で生きる日本人女性たちの物語』(風媒社・2025年)